

推定樹齢200年。岩代のシンボル・合戦場のしだれ桜を後世に！



▲合戦場のしだれ桜のファンが、全国各地から大型バスで訪れています。

◀今年「がっかり」「残念」「悲しい」「頑張って」など様々な声が寄せられました。

岩代の春の風物詩として、その優美な姿で訪れる人々を魅了してきた合戦場のしだれ桜が、危機に瀕しています。数年前から樹勢回復に取り組んできた「合戦場のしだれ桜保存会」の会長、山崎清志さんより、これまでの経緯や合戦場のしだれ桜への思い、岩代の皆さんへのメッセージを伺いました。

「合戦場のしだれ桜は、昼も夜も岩代の春を美しく彩り地域に活気をもたらしてくれました」東新殿はとりわけ桜が多い地域ですが、その中でもひととき、その艶やかな風情で多くの人々に親しまれてきたのが合戦場のしだれ桜です。「この桜を見たくて遠方からやってきました」という人も多く、ピーク時には年間十万人が訪れた年もあり、地域に賑わいをもたらしてくれました。二百年もこの地を見守ってくれている桜ですが、数年前から花付きが悪くなり、今年は急激に樹勢の衰えが目立つようになりました。



◆皆さんへのお願い◆ 合戦場のしだれ桜保存会 会長 山崎清志さん



「来年の春はもっと淋しい姿になりそうですが、10年という長期的な視点で取り組んでいきたいと思っています」

「私たちの会だけでは不可能なことも、皆さんのご協力があれば実現可能だと信じています」岩代に住む私たちも合戦場のしだれ桜を見て春の訪れを感じる暮らしをしてきました。私自身も美しい桜を見ることが元気をもらってしました。今度は私たちが恩返しをする番だと思っています。皆さんのご協力が大きな力になると信じています。皆さん、岩代が誇る桜を後世に引き継ぐためのご支援をお願いいたします。

★合戦場のしだれ桜 募金のお願い★

募金にご協力いただける方は、下記口座へお願いします。

銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：八二八店（ハチニハチテン）
口座：2855555
口座名義：合戦場のしだれ桜保存会
（カツセンバノシダレザクラ
ホゾンカイ）

★募金後の連絡先メールアドレス★

お名前と住所、電話番号、募金額をお知らせください。岩代観光協会のホームページでのご氏名公開の可否もお知らせください。

iwashirokankou@gmail.com



◆フクロウの募金箱◆
岩代支所にも募金箱を設置しています！

合戦場のしだれ桜保存会 & 樹勢回復への取り組みについて

「合戦場のしだれ桜保存会」の発足時期や活動について、また樹勢回復への具体的な取り組み内容について、五代目会長の山崎さんにお話を伺いました。

Q.「合戦場のしだれ桜保存会」とは？

発足は平成11年。合戦場の地権者や身内の人たちだけでは周囲の草刈りや維持管理等が難しくなり、「少しでも手助けができれば」という思いで、地元の有志が集まりました。現在は会員19名。樹勢回復の取り組みはもちろん、桜祭りの時には駐車場の誘導や清掃等、様々な活動をしています。

Q.樹勢回復への具体的な取り組みとは？

- ◆令和3年7月：樹木匠から樹勢回復の提案を受ける
 - ◆令和4年2月～3月：枯れ枝の剪定と殺菌処理を実施
 - ◆令和5年2月～3月：追加の枯れ枝剪定と殺菌処理、施肥
 - ◆令和5年5月以降：毎月、栄養剤を散布する
 - ◆令和6年3月：樹勢回復のための一部土壌改良を行う
- ※資金不足のため土壌改良は一度に全部を行うことができないため、今後長期計画で少しずつ行う予定です。

★合戦場のしだれ桜保存会★ ＜会員募集中＞

「桜の樹勢回復のために何か手伝いたい」という方は、下記までご連絡をお願いします！」

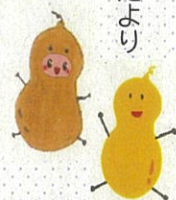
☎080-5564-6552(山崎まで)



▲会員が毎月栄養剤を散布。

かわら版
いわしろう

集落支援員だより



標高1,057m 日山(天王山)山開き のお知らせ

阿武隈高原中部県立自然公園に位置する「日山」の山開きが今年も6月に開催されます。詳細は下記の通りです。楽しいイベントも開催しますので、お誘い合わせの上、ぜひ参加してください。

- ◆日時：6月2日(日)
- ◆10時～日山やまびこコンテスト受付
11時～安全祈願祭
祈願祭終了後、日山やまびこコンテスト

※先着500名まで記念品を差し上げます(10時頃～)。

※問合せ：岩代支所地域振興課

☎0243-65-2803



▲今年は楽しいコンテストも開催され、二本松市他の名産品が用意されています。お楽しみに！

～岩代支所に新しい風～新職員を紹介します

「岩代の皆さんとの新しい出会いを楽しみにしております」

岩代支所産業建設課長

佐藤儀英さん



この四月から産業建設課長として岩代支所に着任しました。福島市出身で、笹谷から通っています。二本松市役所に技術吏員として採用され、今まで土木課、都市計画課、下水道課、東和支所産業建設課に勤務してきました。岩代支所で仕事をさせて

★佐藤さんの魅力に迫る★

☆趣味・休日の過ごし方は？

ゴルフ練習場に毎週行き練習しています。月に2回コースに行きますが、なかなか成果が出ません。優勝できるよう頑張っています。

☆子どもの頃なりたかったのは？

たぶん「野球選手」。学校から帰ると、空き地でよく野球をしていました。

☆これからやりたい事は？

社会人になる息子とゴルフに行ければ楽しいと思います。

いただくのは初めてですが、合戦場のしだれ桜や杉沢の大杉、名目津温泉、日山等の豊かな観光資源のある地域として親しみを感じています。産業建設課では、農政係(農業・畜産・林道の維持管理)、建設管理係(道路の維持管理・市営住宅)を担当します。まずは地域の名前を覚え、岩代の皆さんとの新しい出会いを楽しみに、地域の発展のために頑張っていきたいと思っています。すのでよろしくお願ひいたします。

～日山(天王山)山開きイベントのご案内～

♪海まで届け！日山やまびこコンテスト♪

今年の山開きでは『海まで届け！日山やまびこコンテスト』が開催されます。受付は午前10時から、安全祈願祭終了後に実施します。日山山頂展望台から日頃の思いや叶えたい夢、伝えたいことを熱く叫んでください。

◆審査基準

- ①声の大きさ
- ②叫んだ内容の創意工夫や感動度
- ③表現力や伝わりやすさ

◆受賞者の発表

一等～三等までの順位、審査員特別賞を発表し、受賞者には関係市町村の豪華景品を贈呈します。

※登山者は自然環境を大切に、ゴミを持ち帰るなどマナーを守り、安全確保のため、スタッフの指示に従ってください。

岩代の歴史シリーズ

両属の将 石川弾正の生涯⑬

いしかわだんじょうけんしやうかい

石川弾正顕彰会事務局長

日下部 善己

十二戦国の城下から宿場町へ(後編)

百目木村の開市は、元禄十六年(一七〇三)か宝永元年(一七〇四)からと考えられるが、市場機能はすでに戦国の城下の時点から果たしていたと考えるのが自然であろうか。

二本松藩内では次の八カ所に市が立った。東安達(旧塩松)では小浜、針道、百目木のいわば「塩松三都」で、かつては戦国の城下として繁栄した地域でもあった。川西は城下(二本松)、本宮、日和田、郡山、後に八丁目(松川)も加わった。

二本松藩領内の市日を旧塩松を中心にして見ていく。二日三春、三日百目木、四日常葉、五日小浜、六日針道、七日三春、八日百目木、十日小浜・針道である。近隣では十日間に八日間立市の町があった。なお一日福島・仁井町(小野新町)、九日川俣・日和田の市もある。

宿場商人の活躍・百目木宿の経済活動の繁栄は、例えば渡辺半右衛門のような富商・豪農を誕生させた。弘化二年(一八四五)か三年頃、江戸の浮世絵師、歌川(安藤)広重は、陸奥国安達郡百目木の名主渡辺半右衛門家を訪れ、求めに応じて浮世絵「陸奥安達百目木驛八景圖」を描いている。当代一流の浮世絵師を通して豊かな江戸文化が陸奥の小さな町にも浸透した。

「二本松市が消滅する!？」 4月25日の朝刊に衝撃的な記事が掲載されました。

「消滅の可能性がある」とみなした市町村が県内に33市町村。二本松市も含まれています。民間組織「人口戦略会議」が4月24日発表しました。「消滅する可能性のある市町村」とみなされたのは、2020（令和2）年～2050年の30年間で子供を産む中心世代の20代から30代女性が50%以上減ると推計された市町村で、二本松市は▲59.7%と推計されました。

では、新二本松市が誕生した平成17年12月1日から現在までの18年間で人口がどのように変化したのか、市町村合併後の平成18年4月1日と令和6年4月1日現在の住民基本台帳人口をもとに比較分析していきます。（※以下“%”表示については四捨五入の関係で加減の計算が合わない場合があります。）

20～39歳（女性）5歳刻み人口

	平成18年4月1日 20～39歳（女性）人口（A）					令和6年4月1日 20～39歳（女性）人口（B）					増減数（B-A）					増減率（B/A-1）				
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	合計	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	合計	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	合計	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	合計
二本松地域	1,010	956	1,092	927	3,985	559	529	591	713	2,392	▲451	▲427	▲501	▲214	▲1,593	▲44.7%	▲44.7%	▲45.9%	▲23.1%	▲40.0%
安達地域	383	379	348	298	1,408	209	218	278	342	1,047	▲174	▲161	▲70	44	▲361	▲45.4%	▲42.5%	▲20.1%	0.1%	▲25.6%
東和地域	210	179	170	147	706	57	57	73	90	277	▲153	▲122	▲97	▲57	▲429	▲72.9%	▲68.2%	▲57.1%	▲38.8%	▲60.8%
岩代地域	247	219	177	158	801	79	71	73	80	303	▲168	▲148	▲104	▲78	▲498	▲68.0%	▲67.6%	▲58.8%	▲49.4%	▲62.2%
小浜地区	122	118	86	74	400	41	42	44	45	172	▲81	▲76	▲42	▲29	▲228	▲66.4%	▲64.4%	▲48.8%	▲39.2%	▲57.0%
新殿地区	76	62	56	43	237	23	17	18	12	70	▲53	▲45	▲38	▲31	▲167	▲69.7%	▲72.6%	▲67.9%	▲72.1%	▲70.5%
上太田地区	11	8	10	4	33	3	3	5	5	16	▲8	▲5	▲5	1	▲17	▲72.7%	▲62.5%	▲50.0%	0.3%	▲51.5%
旭地区	38	31	25	37	131	12	9	6	18	45	▲26	▲22	▲19	▲19	▲86	▲68.4%	▲71.0%	▲76.0%	▲51.4%	▲65.6%
二本松市	1,850	1,733	1,787	1,530	6,900	904	875	1,015	1,225	4,019	▲946	▲858	▲772	▲305	▲2,881	▲51.1%	▲49.5%	▲43.2%	▲19.9%	▲41.8%

※50%以上減少したところは網掛けしています。

合併から5か月後の平成18年4月1日現在、二本松市全体の20～39歳の女性は6,900人、市の人口の10.8%でした。令和6年4月1日現在では、4,019人、8.0%に減少しています。

18年間で2,881人減少し、減少率は▲41.8%で、▲50%には達していません。

しかし、岩代地域、東和地域では、それぞれ▲62.2%、▲60.8%と平成18年からの18年間で既に▲50%を超す減少率となっています。しかも、岩代地域が最も高い減少率となっています。

岩代地域の中では特に、新殿、旭地区の減少が大きく、率にしてそれぞれ、▲70.5%、▲65.6%となっています。それでは、総人口の変化はどうでしょうか。

二本松市人口及び20～39歳（女性人口）

地域	人口	平成18年4月1日人口				令和6年4月1日人口				人口の増減数	人口の増減率	二本松市人口に占める地域人口の割合の増減	二本松市20～39歳（女性）人口に占める地域20～39歳（女性）人口の割合の増減	20～39歳（女性）人口の地域別人口に占める率の増減
		A	B	C	D	E	F	G	H					
		二本松市人口に占める地域人口の割合	20～39歳（女性）人口	二本松市20～39歳（女性）人口に占める地域20～39歳（女性）人口の割合	20～39歳（女性）人口に占める別人口に占める割合	人口	二本松市人口に占める地域人口の割合	20～39歳（女性）人口	二本松市20～39歳（女性）人口に占める地域20～39歳（女性）人口の割合	20～39歳（女性）人口に占める別人口に占める割合	K=C-A L=C/A-1	M=G-B	N=I-D	O=J-E
二本松地域	35,014	54.8%	3,985	57.8%	11.4%	28,172	56.0%	2,392	59.5%	8.5%	▲6,842 ▲19.5%	1.3%	1.8%	▲2.9%
安達地域	12,057	18.9%	1,408	20.4%	11.7%	11,379	22.6%	1,047	26.1%	9.2%	▲678 ▲5.6%	3.8%	5.6%	▲2.5%
東和地域	7,969	12.5%	706	10.2%	8.9%	5,155	10.3%	277	6.9%	5.4%	▲2,814 ▲35.3%	▲2.2%	▲3.3%	▲3.5%
岩代地域	8,901	13.9%	801	11.6%	9.0%	5,571	11.1%	303	7.5%	5.4%	▲3,330 ▲37.4%	▲2.8%	▲4.1%	▲3.6%
小浜地区	4,263	6.7%	400	5.8%	9.4%	2,833	5.6%	172	4.3%	6.1%	▲1,430 ▲33.5%	▲1.0%	▲1.5%	▲3.3%
新殿地区	2,524	3.9%	237	3.4%	9.4%	1,531	3.0%	70	1.7%	4.6%	▲993 ▲39.3%	▲0.9%	▲1.7%	▲4.8%
上太田地区	424	0.7%	33	0.5%	7.8%	246	0.5%	16	0.4%	6.5%	▲178 ▲42.0%	▲0.2%	▲0.1%	▲1.3%
旭地区	1,620	2.6%	131	1.9%	7.8%	961	1.9%	45	1.1%	4.7%	▲729 ▲43.1%	▲0.7%	▲0.8%	▲3.1%
二本松市	63,941	100.0%	6,900	100.0%	10.8%	50,277	100.0%	4,019	100.0%	8.0%	▲13,664 ▲21.4%	0.0%	0.0%	▲2.8%

平成18年4月1日の人口は、二本松市が63,941人、うち岩代地区は8,901人(A欄)でしたが、令和6年4月1日では、それぞれ、50,277人、5,571人(F欄)となり、減少数および減少率はそれぞれ、▲13,664人、▲3,330人(K欄)、▲21.4%、▲37.4%(L欄)となっています。

地域別にみると二本松地域が減少数では▲6,842人(人口減少数の約50%)と最も多い減少数ですが、減少率では▲19.5%です。安達地区は減少数▲678人、減少率▲5.6%と、最も少ない数値で、他地域と比べて1ケタ少ない数値です。岩代、東和地域の減少率はともに▲30%を超しており、それぞれ、▲37.4%、▲35.3%と平成18年から3分の1以上が減少しており、岩代地域の減少率が最も高いことがわかります。

各地域とも人口が減少していますが、各地域人口(A,F欄)及び総人口に占める割合(B,G欄)により、総人口に占める割合の増減(M欄)を比較すると岩代、東和地域が減少し、二本松、安達地域が増加しています。

20～39歳(女性)の総人口に占める割合の増減(N欄)についても同様となっています。

次に、年齢3区分人口を比較していきます。(※ 年齢3区分人口＝年少人口(0～14歳)＋生産年齢人口(15～64歳)＋老年人口(65歳以上))

年齢3区分人口

	平成18年4月1日(A) (下段は地域に占める割合)			令和6年4月1日(B) (下段は地域に占める割合)			増減数(B-A)			増減率(B/A-I)		
	人口	年少人口	生産年齢人口	人口	年少人口	生産年齢人口	人口	年少人口	生産年齢人口	人口	年少人口	生産年齢人口
二本松地域	35,014	5,108 14.6%	22,164 63.3%	28,172	2,817 10.0%	15,575 55.3%	▲6,842	▲2,291 ▲4.6%	▲6,589 ▲8.0%	▲19,556	▲44.9%	▲29,770
安達地域	12,057	1,657 13.7%	7,631 63.3%	11,379	1,556 13.7%	6,261 55.0%	▲678	▲101 ▲0.0%	▲1,370 ▲8.3%	▲5,677	▲6.1%	▲18.0%
東和地域	7,969	958 12.0%	4,536 56.9%	5,155	380 7.4%	2,369 46.0%	▲2,814	▲578 ▲4.6%	▲2,167 ▲10.9%	▲35.3%	▲60.3%	▲47.8%
岩代地域	8,901	1,074 12.1%	5,301 59.6%	5,571	333 6.0%	2,616 47.0%	▲3,330	▲741 ▲6.1%	▲2,685 ▲12.6%	▲37.4%	▲69.0%	▲50.7%
小浜地区 新郷地区 上太田地区 旭地区	4,263	513 12.0%	2,623 61.5%	2,833	202 7.1%	1,339 47.3%	▲1,430	▲311 ▲4.9%	▲1,284 ▲14.3%	165	▲33.5%	▲49.0%
	2,524	320 12.7%	1,464 58.0%	1,531	71 4.6%	730 47.7%	▲993	▲249 ▲8.0%	▲734 ▲10.3%	▲10	▲39.3%	▲50.1%
	424	49 11.6%	246 58.0%	246	13 5.3%	107 43.5%	▲178	▲36 ▲6.3%	▲139 ▲14.5%	▲3	▲42.0%	▲56.5%
	1,690	192 11.4%	968 57.3%	961	47 4.9%	440 45.8%	▲729	▲145 ▲6.5%	▲528 ▲11.5%	▲56	▲43.1%	▲10.6%
二本松市	63,941	8,797 13.8%	39,632 62.0%	50,277	5,086 10.1%	26,821 53.3%	▲13,664	▲3,711 ▲3.7%	▲12,811 ▲8.7%	2,858	▲21.4%	▲32.3%

年少人口＝0～14歳 生産年齢人口＝15～64歳 老年人口＝65歳以上

二本松市の人口が合併時から▲21.4%(63,941人→50,277人)減少していることは先に述べましたが、年齢3区分人口で見ると、年少人口が▲42.2%(8,797人→5,086人)、生産年齢人口が▲32.3%(39,632人→26,821人)となっています。

岩代地区においては、年少人口が▲69.0%(1,074人→333人)、生産年齢人口が▲50.7%(5,301人→2,616人)と共に半数以下になってしまいました。

逆に、老年人口は3.8%の増加(2,526人→2,622人)となっています。(まだまだ若い65歳でも老年者という定義には違和感を覚えますが)。

これから地域を担う年代、そして、現在地域を担っている年代が大きく減少し、老年者も積極的に地域を担っている姿が見てとれます。

このように岩代地域の人口減少が顕著であることは肌で感じていることと思いますが、数字を見るとさらに明らかに明らになります。

人口の減少は自治会運営にとって大きな問題かもしれませんが、自治会の実態を把握する一つの数字という事だけです。

その自治会が生き生きと、活発に活動し、住んでいる皆さんが充実した生活、納得した生活を送っている姿こそが望ましいのではないのでしょうか。

しかし、人口が多いに越したことはありません。

では、何が原因なのか、どうすれば減少率が低くなるのか、自分たちにできることはないのか、一緒に考えていきたいと思います。